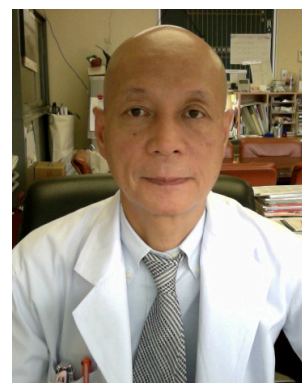


**日本小児救急医学会 理事長**  
**北九州市立八幡病院 小児救急センター**  
**市川光太郎**



**丸 5 年 !**

東日本大震災と大津波から、丸 5 年、復興～新生への道程は始まったばかりという程度に過ぎないと完全新生までの道程はきわめて長期のスパンを要するものだろうと推察します。

5 年の間に、世界も日本も大きなうねりの中で、色々な変化・変動にさらされている状況で、目を見はる、或いは目を背けたくなる事象に遭遇しています。しかし、3.11.の傷跡は変わらないままであり、まだまだと言うより、もっともっと支援の手が必要な状況と考えています。

小児医療復興新生事務局の設立から丸 3 年余り、そのあゆみはまさに「ほそくながく」ですが、確実に足跡を残し、足跡の彼方に将来への期待が見通せます。地域小児医療支援につながる医療提供体制が構築されていくことを願うばかりです。

日本小児救急医学会として、救急という急性期のみではなく、まさに回復期の医療支援も救急医療の時間軸の中で、車の両輪と考えて、向かい合わなくてはならないと考えています。心ある会員が一人でも二人でも復興新生事務局を通じて支援の手を差し伸べてくださることを心から願いながら、「ほそくながく」の活動が言葉どおり続いていきますことを願っています。

2016.3.11

**ほそくながく**

本日 14 時 46 分、3 度目の「黙祷」を院内全職員で行ったが、多くの国民が時と復興の流れの乖離を感じたのではなかろうか。

小児医療支援の急性期学会活動から、その意を「心を紡ぐ」気持ちで継続し、「東日本大震災小児医療復興新生事務局」が被災 3 県の行政の方々の尽力で立ち上がり、支援小児科医公募事業が継続されている。その支援は「ほそくながく」であっても続かねばならないし、新しい地域医療の視点も加味されて地域復興につながる支援へ進化していけば良いと願っています。

地域の子ども達の心を豊かにする支援を行うことができれば、彼らが成人した時の地域の人間性は高まり、助け合いの心は無論のこと、弱者を慈しむ心が溢れる地域になることと期待します。そういう意味では将来を託す子ども達の健康を支援する喜びを多くの小児科医に知って欲しいと願っています。

2014.3.11.

## 東日本大震災小児医療復興新生事務局 HP の立ち上げに際して

平成 24 年晩秋、3 大学医学部小児科教授の御協力もあり、岩手・宮城・福島の 3 県行政合同による「東日本大震災小児医療復興新生事務局」が誕生し、支援医の要望に応えやすい支援施設・診療形態の斡旋が開始された。発災から丸 2 年を経て、より情報公開・収集が簡便な事務局 HP が JSEP の経済的支援に開設され、嬉しい知らせとなった。よりニーズの高い支援医療、その形態、その地区などがリアルタイムで発信可能である。一方、支援をしてくださった先生達の感想・課題や今後の支援医への助言なども貴重且つ参考になる。

平成 24 年 12 月、仙台の名取川河口に行く機会を得た。その光景に立ちすくみ、復興は今からで、粘り強く永く子ども達の支援をすべき！と心底思った。

2013.3.28.